

## 経営のヒント44 氷煮三国志の逸話」

### ねずみの天国」

ご紹介著書「氷煮三国志」の中の逸話です。追加のご紹介です。

古いお城の中で、ネズミの一族が楽しく暮らしていました。

彼らはそこで遊びや恋愛を愉しみながら、天使のように憂いのない毎日を楽しみ過ごしていました。その様子を、物知りネズミがこう言い表しました。

「ここはネズミの天国だ」

ある日のことです。天をつんざく猫の叫び声が、ネズミたちの穏やかな暮らしを破りました。ネズミたちは忍び寄る恐怖に打ち震えました。

そこでネズミたちは集まって、この忌々しい黒猫にどう備えればいいのかを話し合いました。

みんな黒猫の悪事を言い募るだけで、なかなかいい意見が出てきません。そうこうしているときに、あの物知りネズミがヒゲをこすりながら言いました。

「ひとついいアイデアがあるんだが……。」

猫の首に鈴をつけるんだ。そうすれば、猫が近づいて来れば鈴の音が聞こえる。鈴の音が聞こえたらすぐに逃げればいいんだ」

「それはいい！」

ネズミたちはすばらしいアイデアに沸き返りました。

「でも………」とあるネズミが言いました。

そして、こう続けたのです。

「どうやってその鈴を猫の首につけるの？」

そのとたん、ネズミたちはみんな黙ってしまいました。

みんなもよく覚えておくといい。

アイデアだけじゃなくやり方も一緒にかんがえなくちゃならないってことを。

劉備は寓話を終えると、ふーっと小さく息を吐き出してから続けて話した。

ボクは、諸葛孔明が来るまではアイデアを出すだけのネズミだった。いろんなアイデアが雲のようにわきあがってくるんだけど、それっきり何もしないでしぼんでしまう。普通誰でもそんなところだと思うんだけど、孔明だけは違っていた。彼はどうやってその鈴を猫の首につけるかというところまで考えているんだ」

「一人がアイデアを出し、もう一人が実行するってわけね。あなたが戦略を立てて、孔明さんがその戦略に合った戦術を実行していっていかうことか、絶好のコンビじゃない、あなたたちは」

### ねずみの天国」

?? 現代でも、いっぱいありそうですね！

「ああすればいい……」「こうなればいい……」と、他人事のように意見だけは言い放題。

「でも、いったい、それは誰がやるの？」誰かがやるだろう……」

理想論、概念論だけでは、何も変わらない！私自身にも耳が痛い話です。行動計画が揃って一人前。

つまりは5W 2H が重要！出来ない理由を考える前に、どうすれば出来るのか？

～～～一人ではなく、皆で智恵を搾り出し、考えることが重要ですね～～～

研修で、グループミーティングをしていると不思議なんですよ！

10人位でワイガヤしているといいアイデアが出るんですね！三人寄れば文殊の智恵なんてね！